

前号における同窓会の取材の中で、「安芸の国」という曲の存在を知った。それについてOBの方への取材を進めるうちに「総科音頭」や「総科節」という曲があることも伺ったが、時間の都合で、今回は「安芸の国」しか紹介するに至らなかった。

その後、引き続き調査を行い、2名のOBのご協力によって、今回「総科音頭」や「総科節」を紹介できる運びとなった。

30年以上前に作られたこれらの作品と当時の思い出が、時を越えて今よみがえる。

総科音頭、総科節の思い出

「ふたつの唄ができた経緯について、語って下さい。」

大学に入ったのは1977年ですが、当時はフォークとアイドル歌手の全盛期でした。多くの若者が、芸能にかぶれていた。気の利いた人はギターを奏で、自作の歌をうたうのが当たり前の時代でした。私は楽器はまったくできませんでしたが、そのような風潮には染まっていました(笑)。それを見透かした、総科1回生のリーダー的存在だった田中伸武氏から、春季学祭で皆でアピールしようや、何か考えてくれないかと言われました。それでふたつの唄をつくったつもりなのですが、もしかしたら総科節は11月の大学祭用にくったものかもしれません。もう30年以上も前のことですし、どの局面でもアルコールが入っていましたから(笑)、あまり記憶がないのです。

「とりあえず(笑)お作りになった?」

一晩もかからずできました。というのも高校時代に、故郷をモチーフに児島音頭、児島節という唄をつくりました。その語句を入れかえるだけで良かったのです。ですから、あの時点でのオリジナルというわけではありませんでした。ところで私は、メロディを楽譜にすることができませんでした。それをして下さったのは田中氏です。振付も私のプロトタイプを、マニュアル化して下さったのは彼です。従ってふたつの唄は彼の助力なくしてはあり得ませんでした。

